

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100288		
法人名	有限会社 アテネ		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	大分市大字鷺野1183番地1		
自己評価作成日	平成24年3月25日	評価結果市町村受理日	平成24年7月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所されている利用者を自分の祖父、祖母、父母との気持ちで接し、一緒に笑ったり、泣いたり、困ったり、色々な事を楽しんだり、本当の大家族のように毎日を過ごしています。利用者の笑顔を見るために常に何をしたらいいかと考え、お世話させていただいている心優しい職員がいっぱいいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490100288&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	平成24年4月26日

市中心部に位置し、近くには公園もあり毎日散歩が楽しめ、利用者の憩いの場となっています。有料老人ホーム、小規模多機能ホーム等がある複合施設で2・3階にある2ユニットのホームです。一人ひとりのこれまでの習慣を大切に、できる限り以前の生活が継続できるよう環境を整え、希望に添った支援を行っています。職員は、自分の祖父母、父母のつもりで心を込めた対応に心掛けており、利用者、家族から、このホームに入所して良かったと思ってもらえるよう、アットホームな施設作りを目指しています。またチームで同じ介護ができるよう「対応のポイント」と書いたマニュアルを用い、介護技術の向上に努めています。管理者は、職員と共に地域密着型の意義を踏まえ、地域の方の挨拶、会話を大事に、気楽に立ち寄れる開かれたホームを目指し、努力を続けています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各グループ内に掲示されており、毎月定例会議においては再確認の意味も含め唱和している。入居者と職員は一つの家族としての連帯感を持ち、日常を普通に安心して過ごせるよう、支援に努めている。	一人ひとりの個性の尊重・家族との交流を大切に、職員の笑顔と技術の向上を銘じ、地域での暮らさを大切に、利用者に寄り添いながら、自立支援・喜びのある日常生活のケアに取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設のイベントに地域の人に来ていただくことも増え、入居者は地域の公園に散歩やお店への買い物に出かけ、近隣の方とも顔なじみとなっている。	施設行事(夏祭り等)やボランティア訪問、地域行事へのお手伝い(職員)を通して積極的に地域間の交流に取り組んでいます。散歩や近隣への買い物による、日常的な近所との関係づくりを支援しています。	積極的に地域間との関係づくりに取り組む中で、地域における施設のニーズや役割等の気付きを大切に捉えています。相互の関係づくりと、交流を深める体制づくりによる、更なる質の向上に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に声かけをし、機会あるごとに来ていただき交流を図るようにしていると同時に、認知症等でお困りの方があれば、いつでも相談をしていただきたいと地域民生委員等にお知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月毎に運営推進会議を行い、入居状況、活動、事故、特記事項等の報告を行っている。委員には活発な意見や助言をいただき、また情報交換の場となっている。これらを職員会議にて全員で共有し、今後の支援に反映できるよう努めている。	行政、近隣の自治体・民生委員・老人会、家族(順番)の代表者参加の中で、施設の現状・ヒヤリハット等の報告が行なわれています。地域に根付いた施設づくりを念頭に、相互交流と協議が図られています。	管理者は、利用者と共に地域で暮らす施設の在り方・その日常的な支援の向上を今後の課題と捉え、意欲的に取り組まれています。地域密着型施設として、参加者との相互の協同的な関係づくりを図りながら、一層の発展に期待が持たれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議をての担当者には相談、助言等で他でも電話にての相談、指導を仰ぎ、業務の改善に努めている。又、市が開催の研修会、勉強会には積極的に参加している。	運営推進委員会を経て、情報を発信する提供者・アドバイザーとして、また、行政機関の訪問(生活保護等)、主催の研修会(キャラバンメイト等)への参加の中で、相互の関係づくりに努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に身体拘束をしないを約束の元に。安全面に配慮し見守り、声かけを行っている。玄関の施錠は夜間のみ、職員数が減るため防犯のためにもしている。	外部研修や内部研修(随時)により全職員の周知が図られており、身心の拘束を排除するケアの実践に繋がっています。職員間の相互の気づき・技術の伝授の大切さを理解しており、利用者に寄り添う体制づくりに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、施設内では伝達講習を行っている。日々の生活の中で入居者、職員が虐待につながるストレスや不満が溜まらないよう相談、助言ができる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が個人的には学ぶ機会と成年後見制度利用の場に立ち会ってはいるが、当施設ではまだない。今後は職員全員が制度について学ぶ機会を持ち、施設として必要性のある利用者が活用できるように努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については施設長あるいは管理者が行っており、十分な説明をし、納得された上で署名・捺印をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会には出席していただき発言の場を設け、意見、要望等を言ってもらい、日頃の面会の時間にも、積極的に職員も家族からの忌憚のない意見をお聞きするよう努め、運営に反映するよう努めています。	家族等との会話(普段の生活の様子を伝える)をポイントとし、家族や利用者の思いの把握に努める中で、相互のコミュニケーションに励んでいます。個々の利用者・家族の願いを尊重した支援の実践に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は毎月の定例会議で出し合い、日頃から職員間での、意見交換ができ、個人的にも相談できるよう配慮している。	一人ひとりの利用者本位の支援に向けて、運営理念を念頭に据え、職員のチーム力と積極性を大切に、全職員間で実践(意向・アイデアの発案→話し合い→実践→見直し)に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務体制等、負担のないよう配慮し、個々が向上心を持って働けるよう、研修、資格取得には積極的な支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会等積極的な参加で、スキルアップできるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での勉強会への参加、他事業所への訪問にての勉強で各々、刺激を受けサービスの質の向上に繋がっている。今後も他事業所との交流を図りネットワークづくりを整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には訪問面接にて、本人の現在の状態、思いを引き出せ、安心した環境を提供できるよう情報収集に努める。また、できるだけ施設見学をしていただき、雰囲気を知っていただく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて、家族の思いや要望を聴き、サービスへ反映させる。また、いつでも家族が意見や要望を出しやすいような関係づくりに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	、本人家族を含め話合った結果、必要であるサービスであれば、施設外サービスであっても説明、納得された上で対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当事業所の理念である、自分の祖父母と思いをこめてお世話をするとともに、家族として、得意なこと、できることを発揮できるような環境をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベント参加の声かけや、日常生活の様子を機会あるごとに報告しており、家族が見えられることが何よりであることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも訪問ができるような環境に努め、知人や親せきの方の訪問もあります。また、馴染の場所へ出かけたりもしています。	家族との交流を大切に、利用者の生活暦(趣味の会等)の把握に努める中で、馴染みの関係の把握と繋がりを大切に、利用者や家族と共に継続的な支援(来訪・自宅等訪問)に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人ひとりに配慮し、孤立しないようにしている。また、みんなで楽しめるゲームや作業を提供するように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には情報提供をするとともに、退所後も必要であれば連絡をの、説明をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人より思いや希望は直接聴き取りをし、困難な場合は日々の生活の中での観察で、思いや意向の把握に努めている。	利用者一人ひとりとの日常会話を大切に、声や表情に留意する中で、その思いの把握と、寄り添う暮らしを支援しながら、家族との協力的な相互の関係づくりに積極的に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネ等の入所時の聴き取りや情報提供にて収集し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックと心身の状態を把握し、個々にあった運動や、散歩等で残存機能の維持に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議にてモニタリングを行い、本人、家族の意向をくみ取りながら介護計画をしている。	2ユニットの特性を活用(職員応援)する取り組みの中で、全職員参加のユニット会議(15:00時～)が開催されており、利用者・家族の思いの尊重と個々の職員の気づきを大切に、チームでの協議が行なわれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録はしており、職員が目を通すのにバイタル、排泄、食事量等は一目でわかる様式にし、勤務前には申し送りとともに確認するようにしている。職員の気づき等を、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日に生じる状況に臨機応変の対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域周辺や公園への散歩やストアーに出かけ顔見知りとなっている。また、祭りやイベント参加への支援もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には本人家族と十分な話し合いで、かかりつけ医を決め、入居時には基本、受診していただきます。かかりつけ医には必要な情報提供や連携で、緊急時にも対応します。	基本的には入所前のかかりつけ医の受診を支援していますが、家族の要望があれば、協力医療機関の通院介助も行っています。月2回の協力医の往診もあり、緊急時には医師、看護師、職員の連携も図られ、迅速な対応を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師により、毎日の心身の状態の把握はできている。また、介護士よりの報告、連絡、相談には適切な指示、指導がされており、かかりつけ医との連携も密に取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関の看護師、MSWとも連携し、情報交換に努めている。また職員が面会に行き本人や家族とも話し合い、退院時の受け入れがスムーズに運ぶよう環境整備を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化指針の説明を行い、契約されている。終末期が近づいた場合は、かかりつけ医、家族、看護師、介護士により今後の方向性を話し合う会議を持ち、全職員で共有し、支援する。	入居契約時に事業所の力量や体制について説明し、本人や家族の意向を確認しています。しかし状況に応じて方針は変わるもので、その都度意志の確認を行い、医師、職員が方針を共有しながら支援に取り組んでいます。	今まで看取りを経験されていますが、まだ経験のない職員には、精神面や技術面のフォローが必要です。研修や勉強会等で実践力を身に付ける取り組みを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルは常に目にする場所に貼付しており、定期的な看護師の指導、指示がある。常に実践力を身に付けられるよう、取り組みをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、チェック表にて毎日の防火設備の点検をしている。避難順路も掲示しており全職員把握している。緊急時連絡網を作成している。	法人合同で年2回の防災訓練及び研修を実施すると共に、事業所独自の防火、避難訓練も随時行っています。また緊急連絡網は作成済みで、会議では具体的なシュミレーションを行い、全職員の周知に努めています。	建物の2・3階がホームであるため、特に夜間の避難は職員だけで行うには、限界があります。地域の住民の協力も不可欠である為、運営推進会議を通し、地元の人々の協力を呼びかける等、地域への働き掛けに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの今までの生き方や環境に配慮し、常に人生の先輩として敬い、自分の祖母と違い、心こめて接するよう職員指導している。	全職員が接遇研修を受け、利用者の尊厳について共通認識を持っています。家族からお世話になって良かったと思ってもらえるよう、利用者の個々の対応を重視し、尊重とプライバシーを損ねない言葉掛けや態度に気を付ける中で、職員は自信を持って対応を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に無理強いせず、自己決定できるよう心がけています。思いや希望を、いつでも言える環境をも心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調や気分に合わせて、何事も無理強いせず過ごしていただきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の時には好きな衣類を選んでいただき、散髪やパーマを希望の時には手配する。また整容に関しては毎日心くばりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各テーブルに職員が同席し、会話をしながら食事をします。おやつづくりは、月に2~3回、希望を聴きながら昔作ったことのある懐かしい物を、一緒に作るようにしている。	利用者との日頃の会話の中で、嗜好や満足度を聞き取り、厨房会議にて栄養士、調理人を交え話し合い、メニューに反映しています。外食をしたり、おやつ作りを手伝ってもらう事で、食事を楽しめる工夫を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食事形態、量を提供し、医師の指示ある人にはそれに応じた食事や水分の提供をしている。また、夜間の水分補給にも留意している。栄養士、厨房スタッフ、職員での会議を2月/1回行い意見交換を図っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアは個々にあった支援をしている。口腔内に不具合が見つかった場合は、家族とも相談し、歯科受診を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンの把握に努め、声かけによりトイレでの排泄を心がけて、自立できるよう支援をしている。	排泄のパターンを把握して、声掛けによる誘導を行っています。利用者がトイレに行きたい時に発するサインを見逃さないケアが出来るよう、そのサインを職員間で共有しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄を記録し、個々のパターンの把握に努めている。厨房会議においても、便通のよい食品の提供等を話合っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回と決めているが、個々の体調や希望を考慮し対応している。	基本的には週3回の入浴となっているが、1階の小規模多機能ホーム、2・3階ホーム等毎日入浴介助を行っているため、希望があれば曜日を問わずいつでも入浴が出来るよう柔軟な対応を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身の状況を把握し、日中は散歩や体を動かすことで夜間の安眠が取れるよう支援している。また、適度な整容の時間も取るよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は服薬間違いのないよう二重三重の確認により服薬支援している。入居者全員の薬剤の説明書は1冊にファイルしており、職員がいつでも確認、把握でき、変更がある場合は連絡ノート等で全員が把握できるよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々が得意な部分で日々の生活の中で、協力しながら役割分担し過ごしている。また毎日の中で、音楽を聴いたり囲碁に興じたりしており、気分転換できるようレクリエーション等も提供実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や個々の状態に配慮しながら、近くの公園等に散歩に積極的に出かけている。シーズン毎には戸外へのドライブを兼ねイベントを実施している。個々の希望があれば、家族とも相談し、できる限り叶うよう支援に努めている。	利用者の体力に応じて、散歩コースを設定し、無理なく外気に触れられるよう支援をしています。買い物、外食、季節のドライブ等を実施し、家族の協力を得る事で、利用者の希望に添えるよう支援を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理でき、お金を所持している方には希望に応じ買い物支援している。できない方には家族と相談しながら希望に添うよう支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話での会話ができるようにしたり、届いたはがきの代読を頼まれたら読んで差し上げたりと支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は清潔を保ち、ホールや廊下には四季の花々、オブジェ、音楽を流している。入浴はゆず湯、しょうぶ湯、季節の花々を浮かべたり、好みの入浴剤を使用するなど工夫し気持ちよく過ごしていただきたいと考えている。	ホールの壁には、レクリエーションの写真、生活感のある飾り付けや装飾品が、家庭的な雰囲気を出しており、ホールの外のプランターでは、利用者と共に植えた花々が、利用者にはやしと安らぎを与えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブル席は人間関係を考慮し座る場所を決め、ソファを置き、ゆったりできる空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より馴染の物を持って来られ、好きなよう配置したり飾りつけをしていただいている。	居室はプライバシーに十分配慮しながら、家族と相談し、本人が落ち着いて過ごせる工夫を行っています。寝具やタンス、仏壇、家族写真、思い出の品々が持ち込まれそれぞれの利用者の居心地の良い居室作りに配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には各所に手すりをつけ、歩行や移動移乗が安全にでき、また歩行練習等ができるよう配慮している。またベットの起き上がりや立ち上がりが個々に合わせてできるよう、3モーターを設置している。		